



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉

2019年09月30日 第938号「週刊五十嵐レポート」

絶滅危惧種にならないために

9月24日付、朝日新聞に「世界最古の旅行会社破産、大混乱」という記事。英国の世界最古の旅行会社、トーマス・クックグループがロンドンの裁判所に破産申請、手続きが始まった。従業員数約2万1,000人。バック旅行の企画が得意としてホテルや航空会社も経営。しかし、ネット専門の旅行会社の台頭や個人が直接宿泊の貸し借りをする時代になり、業績悪化。航空業も格安航空会社との競争にさらされ苦戦。時代遅れのビジネスモデルになってしまった。

9月25日付、日経新聞に「貨幣処理機のグローリー、現金離れ逆手に」という記事。キャッシュレス化の進展は逆風だが、その裏側で生じる需要を取り込み成長を目指す。現金関連機器で「残存者利益」を確保しつつ、新規事業の育成を急ぐ。

「キャッシュアウト」。スマホアプリで希望店舗と金額を入力し、小売店でQRコードを提示すれば、銀行口座にある現金を引き出せる。レジがATM代わりになる。世界のATM設置台数は2018年に初めて前年割れした。グローリーがキャッシュアウトに着目。現金を管理する新しい仕組みを構築する。

キャッシュレス化が世の流れは変わらない。硬貨を識別するノウハウを顔認証システムに展開。メカ技術を食品工場向けのロボットハンドに応用。収益の柱にするには時間がかかる。まだある現金関連の残存者利益があるうちに。

人の一生のように商品や事業にもライフサイクルがある。今売れている商品もやがて売れなくなる日が来る。どんなに良い事業もやがて凋落する運命にある。特定の商品や特定の業界に執着すると会社は衰退して、やがて倒産する。

衰退や倒産にならないために、社長は、毎年革新していくことが必要になる。それには、情報を収集し、研究し、創造性を働かし、試行錯誤(行動)し、決断していくこと。決断力がないと、ズルズルと先延ばしをしてやがてゆでがえるになってしまう。「他山の石」としたい。

銀行もどうなるのだろうか。絶滅危惧種にならないでほしい。

ちょっと
気になる出来事

9月26日付、日経新聞の「グローバルオピニオン」より。

アジア地域の国内総生産(GDP)が世界全体に占める比率は2000年は24%だったが、17年には34%まで増えた。40年には50%近くまで増大するとみる。

「アジアの台頭」といわれるが、既に「台頭」の域を超えて、「アジアが世界をリード(けん引)する」という時代に入りつつある。

「4つのアジア」がある。1つは「アドバンスド(発展した)アジア」。日本やオーストラリア、シンガポールなどの先進国。2つ目は中国。非常に巨大で地域のアンカー、技術革新のハブとしての役割。3つ目は東南アジアを中心の「エマージング(台頭する)アジア」。労働力や長期の成長の可能性。4つ目は「フロンティア(未開拓の)アジア」。代表選手がインド。

新聞の記事の数も米国中心から中国、アジアにシフトしている。よく海外に旅行している人の話だと欧州は元気がなくてつまらない。中国、アジアは活気があって面白いと。

やはり時代はアジア。



一口メモ
知識

無駄な知識はいのちとり

役立つ知識は宝になりますが、何の役にも立たない知識はゴミです。

世の中では、テレビや週刊誌などから、

興味本位に情報が垂れ流されています。

それらは、欲望を煽って不安をかき立てるだけの無用の残飯のようなものです。

無駄な知識は不要だけでなく、かえっていのちとりにもなります。

あまりによけいなことを考えすぎて妄想が膨らんでしまいます。

そのため、いまやるべきことがおろそかになって、いつも不安と焦りで追い立てられているような生き方になってしまうのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

